経済リポート　2017年（平成29年）3月10日号

水中のBOD・リンが減少
流域住民が河川浄化に協力
芦田川環境マネジメントC
浄化チャレンジ月間の実施報告

芦田川の水環境改善を目指す官民ネットワーク「芦田川環境マネジメントセンター＝AEMC」（事務局＝福山市西町2−10−1・エフエムふくやま内、田中宏行会長、電０９０・２３８１・６６１９）は、昨年11月に1カ月間「河川浄化チャレンジ月間」を実施。瀬戸川・高屋川流域を中心に、芦田川流域全体に「家庭で出来る水質浄化の取り組み」の実践を呼びかけた。

さらに瀬戸・駅家の2学区、津之郷・赤坂・御野・中条・服部・宜山・常金丸・駅家西・駅家・御幸・網引・瀬戸の12小学校と幸千中学校及び流域の市民団体がアンケートに協力し、このたびAEMCが結果をまとめた。

それによると、瀬戸川流域ではBOD（水中の汚れの量）は約2％、T−P（水中のリンの量）は約15％減っており、一定の削減効果が確認された。水質浄化の取り組みは、07年度からスタートし、通算で10回目となる。

取り組み内容は、①排水口にネットをかけて、調理くずや食べ残しを流さない②汚れのひどい鍋、食器類は、ふき取ってから洗う③食用油は直接流さず、紙にしみ込ませたり、固めたりしてゴミとして出す④食器類を洗う時に、洗剤の使用量を減らす⑤洗濯の時に、洗剤の適量使用を心がける――の5項目。

チャレンジ月間の参加者からは「環境について話をする機会ができて良かった」「日頃から出来ることを続けていこうと思った」などの声が集まった。

□□□□□□□□□□